

さいたま市長年頭記者会見

令和2年1月7日（火曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞さん、進行をよろしく願いいたします。

○ 埼玉新聞 1月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、市長から年頭挨拶をお願いします。

市長年頭あいさつ

○ 市 長 明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、市政各般にわたりまして、ご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

本市は、昨年7月に総人口が131万人を突破し、首都圏有数の大都市へと順調に発展してまいりました。最新の市民意識調査では、本市を「住みやすい」と感じる市民の割合が84.4%、「住み続けたい」という市民の割合は86.2%といずれも過去最高に達しまして、民間調査による「住みたい街ランキング関東版」では、大宮、浦和が同時にトップテン入りを果たしました。

本市が今日までこのように順調に成長発展を遂げることができましたのも市民の皆様や企業、また各種団体の皆様、それぞれの立場でご尽力をいただいていることの賜物であります。心から皆様方に感謝と御礼を申し上げたいと思います。

昨年を振り返りますと、3月には東日本連携の成果の一つであります東日本連携センター「まるまるひがしにほん」を開設しました。既に50万人を超える方々にご来場いただきまして、ご来場の皆様、また東日本の連携自治体の皆様からも大変好評をいただいているところであります。

4月には、埼玉県初の中等教育学校として国際バカロレア認定校を目指すさいたま市立大宮国際中等教育学校が開校しました。「平成31年度全国学

力・学習状況調査」では、初めて中学校英語が調査対象となり、この調査におきまして本市は全国第1位に輝くことができました。グローバル人材の育成に力を入れてきた本市にとりまして、その成果のあらわれとして大変うれしく感じるニュースでもありました。

また、5月には大宮駅東口の連鎖型まちづくりの一環で整備を進めてまいりました大宮区役所の新庁舎が大宮図書館との複合施設としてオープンし、図書館は毎日大勢の利用者で賑わっているところです。

また、7月には、国の持続可能な開発目標（SDGs）推進本部より、「SDGs 未来都市」に選定され、11月には市全域での取得が政令指定都市としては全国初となるセーフコミュニティ国際認証を取得することができました。

12月29日には、さいたま市立病院の新病院が開院し、外来診療を昨日1月6日からスタートしました。新病院においても地域の基幹病院として、市の医療水準の向上に貢献してまいります。

また一方で、去年は風水害による被害の多い一年でもありました。中でも台風19号が直撃し、市内各所で床上・床下浸水等の被害に見舞われました。今回の台風による被災を教訓に、今後の防災対策の強化につなげていきたいと考えております。

迎えた新年、本市では2月22日に、人形文化の拠点施設として「岩槻人形博物館を」オープンします。また、同じ敷地内に、人形のまち、城下町として、にぎわい交流を生む拠点として、「にぎわい交流館いわつき」を同時に開館いたします。「岩槻人形博物館」の開館により、本市を代表する人形、盆栽、鉄道、漫画の4つの文化の施設が揃うこととなります。

開館後は、人形や人形文化に関する資料の収集、保存、調査研究を行い、展示や教育普及活動を通じて、多くの方々に人形への親しみを持っていただけるよう、さまざまな事業を展開してまいりたいと考えております。

また、開催まで100日を切りました「さいたま国際芸術祭2020」が3月14日から5月17日にかけて開催されます。「さいたま国際芸術祭2020」は、東京2020大会の公認文化オリンピックアードの認証を得たほか、「ともにつくる、参加する芸術祭」として、開催テーマ「花／Flower」のもと、開催に向け準備を進めているところであります。参加される

アーティストの方々、関わる市民の皆さまの想像力によって、「さいたまが芸術と生活が一つになったアートサイト」として、文化芸術都市さいたまの魅力をさらに高めていくことを期待しています。

さらに、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」においては、本市はサッカーとバスケットボール競技の開催都市であり、世界中の人々が本市を訪れ、世界の目が注がれることとなります。本大会を通じまして、観光、国際交流、スポーツ、文化芸術、教育等の振興を推進し、その成果を大会レガシーとして継承するとともに、多彩な取組を世界に発信する絶好の機会と捉え、本市の魅力をアピールしてまいります。

少子化と超高齢社会が進行する中、本市が持続的な発展をしていくためには、スマートシティ化が必要だと考えております。美園地区での「スマートシティさいたまモデル」の構築に向けたさまざまな分野の取組について、将来的にはさいたま市全域に広げていくことはもとより、他自治体、国内外に向けて情報発信をしながら、スマートシティ化への取組をより一層推進してまいります。

今年は、市民満足度90%以上を目指す「CS90運動」の目標達成の年限です。一定の成果は出しておりますが、残り1年、目標の達成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

ご案内のとおり、昨年、令和の時代の幕明けを迎え、歴史の節目を迎えることになりました。今年は、現行の総合振興計画をはじめ、マニフェストである「しあわせ倍増プラン2017」、「さいたま市成長加速化戦略」が計画期間の最終年度となります。CS90運動の達成のためにも、引き続き各施策の推進を全力で取り組んでまいります。

また、令和3年度は、本市が誕生20周年を迎え、新しい未来図となる次期総合振興計画がスタートします。先般さいたま市総合振興計画審議会より次期総合振興計画について答申をいただいたところではありますが、この答申を踏まえながら、「2021年の先の新たなステージ」にふさわしい指針づくりを目指してまいります。

そして、本市の強みであります「東日本の交通の結節点」、「災害に強い」、「教育」、「健康・スポーツ」、「環境」について、人工知能などといった最新技術を活用していくとともに、蓄積したビッグデータを利活用して施策を強

化していくことが本市の持続可能な発展につながっていくと考えております。

本市がこれからも多くの市民や企業から選ばれ、魅力ある上質な生活都市として発展を続けていくためには、市民の皆様はもとより、企業、団体、そして大学など、さまざまな方々の英知や善意の力が必要であります。どうか本年も、本市のさらなる前進と飛躍のために、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

結びに、新年が皆様にとって幸多き一年となることを心から祈念して、私の年頭の挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

幹事社質問：

①今年一年の展望と抱負等について

②今年の漢字について

③令和2年度予算編成について

○ 埼玉新聞

ありがとうございました。

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

1点目です。今年は、東京五輪・パラリンピックをはじめ、さまざまな出来事が予定されています。一年の展望と抱負、力を入れる政策をお聞かせください。

2点目です。今年の目標を漢字1字であらわすとしたらどの文字となるか、理由とあわせてお聞かせください。

3点目です。間もなく今年度の当初予算案の市長査定が始まります。改めて予算編成方針についてお考えをお聞かせください。

以上、3点です。

○ 市長

それでは、幹事社からのご質問にお答えしたいと思います。

まず、1番目の一年の展望と抱負、力を入れる政策についてでございます。冒頭の挨拶でも申し上げたとおり、今年は私が掲げました「2020年までに市民の満足度を90%以上にする」というCS90運動の目標の最終年でございます。あえて高い目標設定にした取組であり、残り1年での達成は非常に高いハードルでありますけれども、1%でも市民満足度が向上できるよ

う、全庁を挙げて挑戦をしてみたいと考えております。

また、迎える令和2年度につきましては、現行の「総合振興計画」をはじめ、「しあわせ倍増プラン2017」、「さいたま市成長加速化戦略」が計画期間の最終年度となります。さまざまな取組が集大成を迎える年であり、それらの総仕上げに向けて着実に成果を出していく一年にしてみたいと考えております。

また、オリンピック・パラリンピックイヤーに向けた取組は、力を入れるという点では、すべての分野において積み上げを目指すところではありますが、特にこのオリンピック・パラリンピックへの取組を私たちとしても重視しております。今回の大会は、歴史的にも大変大きなイベントであると考えております。サッカーとバスケットボールの会場となる本市に世界の人々が訪れることから、さいたま市の魅力を発信する絶好の機会であると捉えております。

また、このオリンピック・パラリンピックイヤーにあわせてオープンいたします「岩槻人形博物館」と「にぎわい交流館いわつき」、また東京2020大会公認文化オリンピアドの認証をいただきました「さいたま国際芸術祭2020」も含めて、本市の魅力発信に取り組み、大会のレガシーづくりを官民一体となって取り組んでみたいと考えております。

また、電気自動車の普及促進の取組を契機として、平成23年には「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の指定を国から受けて、環境・エネルギー分野に加えて、レジリエンス性の向上というスマートシティの土台づくりに取り組んでまいりました。この総合特区事業は本年度が最終年度となりますが、現在モデル地区でございます美園地区では、ICTを活用した「みその“健幸”度向上プロジェクト」などの実証実験を進めているところであります。これらの取組は、「人のつながり」や「コミュニティ」を育むことも大切にしたいという思いを込めて進めているものでございます。引き続き企業や大学と連携を深めながら、先進のテクノロジーによって人と人を絆で結ぶ「スマートシティさいたまモデル」の取組を進めてみたいと考えております。

また、本市誕生20周年を迎える令和3年度には、「(仮称) E-K I Z U N A グローバルサミット」の開催を予定しています。今年は、これに向けた

準備を進めていく年であるとともに、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、「スマートシティさいたまモデル」など他都市に先駆けた先進的な取組について国内外に発信してまいりたいと考えております。

来年で東日本大震災から10年目を迎えます。昨年は、本市は台風第19号により大きな被害が発生し、さいたま市においても大規模な災害が起こりうるということを再認識する年となりました。本市では東日本大震災を契機に、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の重点プロジェクトとして、単に先進的な環境技術の社会実装を目指すだけでなく、平時は低炭素で、災害時にも強く、そしてコミュニティを形成するスマートホーム・コミュニティの整備を進めてまいりました。また、災害時に「動く蓄電池」としても機能する電気自動車の普及、またVtoXの整備を進めまして、安定的な市民生活の継続に注力しているところです。昨年の台風の教訓をしっかりと生かしながら、ハードによる減災対策を進めていくとともに、市民の皆様や企業、また地域の方々と協働しながら、自主防災組織への支援等、地域防災力の向上を図り、災害に強い都市づくりの強化をしていきたいと考えております。

続きまして、今年目標を漢字1字で示すとしたらというご質問にお答えしたいと思います。

今年の漢字は、この「成」という字であります。これは、成果、達成、成長の「成」でございます。繰り返しとなりますが、今年はCS90の最終年、市民満足度90%達成という高い目標に果敢に挑戦をして、本市が成長し続けるという思いを込めて「成」としました。

また、今年「総合振興計画」、「しあわせ倍増プラン」、「成長加速化戦略」といった各種計画の最終年度に当たる年となるために、これらの「集大成」となる「成果」を出せるよう全力で施策に取り組むという意味も込めております。

さらに、7月に迎えます東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、本市は人気競技でありますサッカーとバスケットボールの競技会場となっております。国内はもとより、世界各国から訪れる多くの方々に、「来てよかった」、「また来たい」と感じていただけるよう大会の「成功」に尽力し、しっかりとおもてなしをすることで本市をアピールし、さらなる「成

長」につなげていきたいと考えています。

そして、SDGs 未来都市に選定された都市として、これからも「持続可能な成長」を目指して、本市の魅力をもっと向上させ市民満足度の向上につなげられるよう、私自身強い推進力を持って取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、3 番目、令和 2 年度当初予算編成についてのご質問にお答えしたいと思います。

令和 2 年度予算は、「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」の総仕上げといたしまして、「高品質経営市役所への転換を図り、市民一人ひとりが幸せを実感できる都市」、「誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市」の実現に向けた取組を着実に実施し、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるとともに、そのことを契機として「2021 年の先の新たなステージ」に向けた、さらなる発展を図る予算を編成してまいりたいと考えております。

明日から、新年度予算の市長査定を実施する予定でございます。令和 2 年度の予算編成は、社会保障費の上昇に伴いまして、扶助費を中心とした義務的経費が増え続けており、また都市基盤整備や老朽化した公共施設対策、また本市が成長するための諸施策等、財政需要の大幅な増大が見込まれます。厳しい財政状況の中で、事業の緊急度、また優先度を的確に把握し、費用対効果の検証、決算や年間の業務量を踏まえた予算額の精査など、PDCA サイクルに基づく予算編成を強化してまいります。

その上で、既存事業を見直し、ICT や公民連携の活用などによりまして行政経費の節減と財源の創出に努めて、真に職員が注力すべき市民サービスの向上に必要な事業の推進、そして財政の健全性の維持を両立させつつ、本市が東日本の中枢都市として持続可能な発展を続けていくため、本市の強みを徹底的に生かした施策、また事業を着実に進められるように査定をしてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○ 埼玉新聞

代表質問の説明に関して質問がある方、マイクを使用して質問してください。

幹事社質問に関する質問（CS90運動）

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

CS90運動についてお伺いをいたします。今年2020年为目标年ということで、非常に高い目標ということで、それに近い数字がかなり上がってきてすごいと思うのですが、今年改めまして、CS90運動で力を入れていく施策、足りないこと、すべきこと、力を入れるべきこと、具体的にどういったものが必要かというのを市長のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市長

まずは、一昨年度から、CSパートナーズということで、私たち行政だけではなくて、これは住みやすいという評価でありますから、多くの市民の皆さんや事業者の皆さんとも連携してこの数値を上げていこうとしており、また現状の数値についても、そういった皆さんの協力、ご尽力のおかげという部分もありますので、さらにその連携を強化していこうと全体としては考えております。

さらに、行政としては、まず市民と一番向き合って行政サービスを行っていく自治体でありますので、やはり市民との接点、市民にしっかりと向き合ってこの仕事をしていくということについては、改めて新年の挨拶、訓示の中でも申し上げましたけれども、そういったことを着実に、しっかりとやっていきたいと思っております。

また、行政として重点的に取り組む分野としては、やはり何といたっても1つは子育て支援策の充実があると思っております。私たちとしても、この待機児童ゼロを目指してこれまでも進めてきました。しかしながら、昨年については全国でも待機児童の多い市の一つになりました。これらを解消するために、しっかりとさらに認可保育所の整備にも取り組んでいきたいと考えておりますし、保育環境の充実、あるいは子育て、さらなる支援策の充実を図っていきたいと考えております。

それから、もう一つは、高齢化時代をこれから迎えていくこととなります。さいたま市は、65歳以上の比率でいうと、全国平均と比べると5ポイント以上まだ少ない状況ではありますけれども、これから2025年を踏まえ、さらにその先にもっと高齢化が進んでいくといった時期がございます。それに向けて、着実に地域包括ケアシステムをはじめとして、高齢化社会でもし

っかり安心安全を確保できるような地域での仕組み、あるいは行政サービス、こういったものを一層充実を図ってまいりたいと考えております。

それから、もう一方で市民サービスを充実させるだけではなくて、その財源を生み出していくための努力もしていかなないと、大変厳しい財政状況になってきております。サービスを充実するだけではなかなか難しいと思っておりますので、まさに運命の10年の真っ最中でありますから、この間にしっかりと投資をして、その分その後も含めて歳入を増やせるといった取組の充実を図っていきたいと思っております。

その一つが東日本の連携であったり、大宮駅グランドセントラルステーション化構想を含めた2都心4副都心のまちづくりであり、そういった基盤整備、こういったことも将来的な増収を踏まえながら、適切に対応していきたいと考えております。

そして、何といたっても今年は、先ほども言いましたけれども、「総合振興計画」も含めて多くの計画の最終年度となっておりますので、これまで合併以来、課題となっていることなども含めて、やはりしっかりと前に進めていきたい、やらなければいけないことをしっかりと実施し、新しい次の時代につないでいきたいと思っております。

- 埼玉新聞 今の件なんですけれども、CSパートナーズとの連携を強化するという事なんですけれども、これは鉄道会社さんとかディベロッパーさんという認識でいいのかというのが1点と、もう一点、この調査の中間発表、今後の発表スケジュールについてはどうなっているのでしょうか。
- 市長 まず、CSパートナーズについては、かなり多くの分野の事業者の皆さんに参画をいただいております、企業だけではなくて、アーバンデザインセンターみそのや大宮といった団体、機関なども含めて呼びかけをさせていただいておりますし、民間事業者として住みやすい環境を一緒につくってほしいという思いを持った事業者をさらに増やしていきたいと考えております。
- 市長 市民意識調査の発表のスケジュールは、最終的なのは12月で、中間発表は夏ぐらいに行っていたと思いますので、全体の「住みやすい」、「住み続けたい」の数字は、その中間発表の段階でお知らせすることはできないかと思っております。

幹事社質問に関する質問（オリンピック・パラリンピック関連）

- 日本経済新聞 日経新聞です。
- 先ほどオリパラ関連のところ、レガシーづくりを官民一体となってやりたいという話あったんですけども、何か市長が特に思い入れのあるものといえますか、これはほかと違うぞというものがあれば教えていただきたいんですけども。
- 市 長 一つ大きく言うとなると、市民参加、ボランティアの取組があると思っています。これからの少子化、高齢化、そういった中で、どうやって行政運営をしていくのかといったときに、やはり行政の力だけでは極めて限界があると思っています。その中で、市民の皆さんの力や、企業の皆さんのいろいろな力を結集して、このことに当たっていく、あるいはいろいろな事業をやっていく、まちづくりをしていくという、そういったことの大きな一つの集大成に、オリンピック・パラリンピックというのはなると思っております。
- ですので、そこを一つしっかりと盛り上げていながら、皆が力を合わせて進めていくということの、まさにレガシーをつくるのが最も大切なことではないかと私自身は思っております。
- 埼玉新聞 そのほかいかがでしょうか。
- それでは、そのほかの質問がある人はお願いします。
- ありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
- なお、次回の開催は1月22日水曜日、13時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午前11時27分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。